

くらしの豆知識

2024年9月吉日発行

日本一あつくるしい工務店

情熱工務店
Jyonetsu Koumuten®

今月の話題 - サステナブルファッション浴衣を見直そう -

夏祭りに秋祭り、浴衣に親しんだ方も多いかと思います。日本の伝統的な衣装である浴衣は、驚くほどサステナブルなことをご存知でしょうか。



浴衣がサステナブルな3つ理由

- ①浴衣の染色には伝統的な藍染や草木染が使われます。これらの自然染料は、環境に優しく、安全な素材を使用しているため、現代の環境問題にも対応しています。化学染料とは異なり、環境への負荷が少ないため、持続可能なファッションの一環として注目されています。
- ②どの浴衣も1枚の長方形の布から作られ、長方形に戻すことができます。現代の大量生産の服とは異なり、裁断時に余分な部分が少ないので、生地が無駄がないことが特徴です。実際、江戸時代から続くこの技術は、まさにエコの先駆けとも言えるでしょう。
- ③浴衣がつなぎ直しや染め直しによって長期間使用できる点です。古くなった浴衣は、解いて新たなデザインに仕立て直すことができます。実際に、母から娘へと世代を超えて受け継がれる浴衣も珍しくありません。色あせた浴衣は再び染め直すことで、まるで新品のように蘇ります。一枚の浴衣が何世代にもわたって使用され、ファストファッションの対極にある持続可能な消費文化を体現しています。1枚の布に戻るということはリメイクもやすく、パジャマやワンピース、他にも傘の生地やブックカバーなどの小物にすることもできるので、好きな柄の浴衣を長く楽しむことができます。

昔の人々は浴衣を大切に、手入れをしながら長く愛用してきました。このような知恵は、現代にも通じる持続可能な生活のヒントを与えてくれます。私たちも、この伝統的な知恵を見習い、浴衣のように長く愛される持続可能なファッションを取り入れていきたいものですね。

重ね煮 - トマト入り豚汁 -



まだまだ暑い9月。暑さに疲れた身体を整えてくれる一品です。お味噌とトマトの相性がよく食欲もわいてきます。

味噌 60g
豚肉 40g
人参 30g
玉ねぎ 60g
じゃがいも 100g
トマト 60g
ナス 80g

1. 鍋に図のように材料を重ね、分量内の水をひたひたまで加えてフタをして中火にかける。
2. 沸騰したら弱火にし野菜がやわらかくなるまで煮る。

水 3カップ
しょうゆ 小さじ1
大葉 適量

☆トマトと味噌の相性の良さは予想以上。
☆しょうがを入れるとさらにさっぱり。食欲もアップ。その場合は千切りで鍋の一番下に入れてください。

重ね煮アカデミー主宰
<https://megu-kasaneni.com/>

建築知識 -44年東南海地震と45年三河地震-

敗戦間近い1944年12月7日13時36分の東南海地震は、南海トラフ沿いのプレート沈み込みに伴うM7.9の大地震で震度6~7。千人を超える死者が出て、紀伊半島から伊豆半島までを津波が襲いました。次々にやってくる余震での倒壊を恐れて、道沿いの家々は皆一様に布団を家から持ち出し、路上で布団をかぶって夜を明かしたそうです。余震で、近くの農家の納屋が倒れ、冴えわたった冬空に今では見ることが出来ない「天の川」がくつきり見えたことも覚えていると言った方もいます。

その

37日後、1月13日午前3時過ぎ、プレート内活断層からの直下型地震、最大震度7、死者2千人超えの三河地震が起きます。この2大地震は戦争末期のため救済どころか報道もなく、あまり知られていません。

戦争末期で物資が乏しい時代。行政の支援がない中で、近隣の地元の人々や有志たちが食料や資材を集め、融通し合い、自主的な活動をしていたことを知っていくらか救われた気持ちになりました。

関東大震災以来、ほとんど耐震に進歩は見られず、筋交いはなく貫きと呼ばれる壁構造。竹と荒縄で編んだ「木舞」に泥と藁を練って塗る土壁が普通で、柱は川石の上に立てたので、倒壊被害が多かったのも頷けますが、そんな仕様の家は倒れずその後も長く使われていました。平屋は倒れにくいのかもしれません。



内閣府 三河地震報告書より 現安城市根崎町

辛口コラム - 宿主を操るハリガネムシ -

秋近い小学校の帰り道、通学路脇の水たまりに（昔の道は凸凹で無舗装）フワフワのカマキリがいて黒い30cm以上の針金状の虫が尻から出る場面を見たものです。寄生虫ハリガネムシが水中に出るために宿主であるカマキリを操ってゾンビ化し水に飛び込ませます。彼らは水中で交尾産卵し、孵化した幼生はカゲロウなどの幼虫（水生昆虫）食べられその体内で皮を被ったシストになって休眠します。

成虫となったカゲロウ類は陸に飛び出し、これを食べたカマキリやカマドウマ、コオロギなどの体内で奴らは成長します。繁殖時期になると宿主を操って水に飛び込ませます。水に飛び込もうとするカマキリやカマドウマの脳内にはハリガネムシが産生したらしいある種のタンパク質が発見されており、どうやらこれが水嫌いのカマキリなどにあらぬ行動をさせる元らしい。

世界のある地域ではこうして入水自殺する多数のカマドウマの飛び込みが多発する3カ月の間、当地のアマゴなど溪流魚の栄養源の9割を占めるそうで、自然環境への影響は大きいのです。寄生生物に操られるのは哺乳類も同じ

で、例えばハイエナの子供はトキソプラズマ原虫に寄生されると普通よりライオンに接近するようになり食われる率が高くなりますが、これはトキソプラズマがネコ科の動物体内で繁殖するためライオンに乗り換えるためです。トキソプラズマは人にも寄生し、そうすると人は事業や恋愛でも冒険的な行動をとり易くなるそうです。



コオロギから出るハリガネムシ
ナショナルジオグラフィックス誌より